

学校名	唐津市立西唐津小学校		
1 前年度 評価結果の概要	「学力向上に向け全校統一した組織的な取り組みを実施できたことで、学年が変わっても、児童が発達しを持って学習できるような体制を整えることができた。更にICTを有効的に活用していきながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進め、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に努める。 ・全学年において外部人材を活用し、地域に根差した体験的活動を実施することができた。次年度も地域の人的・物的資源を探り、体験的活動を実施することを通して、児童の豊かな心の育成につなげていく。 ・保健体育部を中心に校内持久走大会や防煙教室、薬物乱用防止教室、歯みがき指導等、保健・体育的行事の取組を計画的に実施することができた。また、「食」においても栄養教諭を中心に栄養に関する指導をすることができた。 ・業務改善・教職員の働き方改革については、教職員一人一人の意識改革のもと、組織的に実行することができている。教職員の年齢差が大きく、若手教職員も多いうことを踏まえて、更に「チーム西唐津」として、児童の育成のために組織的に対応していく。 ・校区内3園や中学校との交流会を通して、保小中連携を共有し、連携を推進することができた。今後も引き続き、連携を密にしていながら、児童が安心して学校生活を送ることができるような体制を整備していく。		
2 学校教育目標	「人・もの・こと」に関わりを持ち 心豊かに育つ西唐津っ子 へにこ きび はき どんへ ・にこにこ…笑顔であいさつと返事 ・きびきび…気づき考え実行 ・はきはきはき…よく聞き考え話す ・どんどん…新しいことへの挑戦		

3 本年度の重点目標	知：やる気⇒①子どもが活躍する授業づくり ②基礎基本と学習習慣の定着 ③学習規律と学習意欲の確立 ④新時代に対応した教育の確立 ⇒『学力向上に積極的に取り組みます』 徳：ほん気⇒①温かい学校・学級づくりの推進 ②基本的な生活習慣の育成 ③特別支援教育の充実 ④体験活動の充実（キャリア教育の推進） ⇒『「人・もの・こと」に関わる心を育てます』 体：げん気⇒①体力づくりの推進 ②健康指導の充実 ③食育の充実 ④危機管理体制の確立（カリキュラムマネジメントによる防災教育・安全教育の推進）⇒『安全・安心な学校づくりに取り組みます』 ④家庭・地域・保小中・関係機関等との連携を推進する。「地域とともにある学校～チーム西唐津の推進～」		
------------	---	--	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
●学力の向上	○「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善による学力向上対策 ・単元のゴールプロセスデザインの見える化 ・協働的な学びの充実 ・ICTの活用場面の設定	○個別最適な学びと協働的な学びを推進する唐津の学びスタイルチェックシートによる振り返り、平均3点以上。 ○「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」について、肯定的な回答をした児童をが90％以上とする。	・定期的に校内研修会等で、学びスタイルの進捗状況を確認する。また、他の学年と進捗状況を共有し、更なる取組の促進を図る。 ・ICT推進教師やICT支援員と協力をして、ICT活用に係る研修会を開催する。	A	「唐津の学びスタイルチェックシート」の評価で、「個別最適な学び」は3.0、「協働的な学び」は3.1で目標の3点以上を達成した。 ・ラーニングマウンテンの取り組みは、研究教科の人数を中心に取り組みを広げることができ、児童の主体的な学びにつながることでできた。 ・ICT活用も様々な教科や場面において進める意識が高まってきた。	A	・どの学年も集中して学習に取り組んでいる様子が見えた。子ども達がタブレット端末の活用に慣れているように感じた。 ・学力の個人差が大きいことに対する対応が難しいように感じた。1クラスの学年の人数が多く、大変だろうと感じた。ICTの有効活用も含め、個別指導のあり方を今後、検討していく必要があると感じた。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重すること、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」について、肯定的な回答をした児童をが90％以上とする。	・縦割り活動やボランティア活動を通してお互いを思いやる経験を積めるようにする。 ・児童の善い行いに気づいた児童が「ほめほめカード」を書いて掲示したり、全校放送したりすることで児童のよさを認める温かい雰囲気作りをする。	A	「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」の質問について97％の児童が肯定的な回答をしていた。 ・1年級、計画委員が中心となって取り組んでいき「ほめほめカード」の取り組みのおかげで、児童同士で良さを認め合う雰囲気作りができた。 ・年間2回の人権集会や縦割り活動を通して、自分だけでなく、他を思いやること、人権を守ることの大切さについて考えることができた。	A	・朝や下校時刻等に子ども達の見守りを行っているが、あいさつが元気にかえてくると子どもとの差が激しいように思う。元気のいい子ども達を見るとき、何か家庭で抱えているものがないだろうか心配してしまふ。 ・上級生が下級生に優しく接している場面を見かけることがある。日頃の学校での取り組みの成果もあるのではないだろうか。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめを見たり気づいたりしたら、止めるようにしたり、大人に伝えたりしていますか」について肯定的な回答をした児童を90％以上とする。 ○「いじめの未然防止、早期発見・対応ができるよう、組織的な指導と取り組みを行っている」について肯定的な回答をした教職員を99％以上とする。	・いじめアンケートや毎月月初めの「西小アンケート」の結果をもとにいじめの早期発見と見直し01に努め、担任、生活主任、SC、SSW等と連携して迅速・適切に解決に当たり、再発防止に努める。	A	「いじめを見たり気づいたりしたら、止めるようにしたり、大人に伝えたりしていますか」の質問に84％の児童が肯定的な回答をしていた。 ・「いじめの未然防止、早期発見・対応ができるよう、組織的な指導と取り組みを行っている」について96％の教職員が肯定的な回答をしていた。教職員、児童ともにいじめを許さない、「いじめを見たら、すぐに相談する」という風土が育っている。この1年間、早期発見、見直し01に努めることができた。	A	・学校が行っている「西小よい子アンケート」は、毎月行っているところが素晴らしいと思う。日常の会話だけでなく、アンケートを実施することで子どもの変化に気づくことができていると思います。 ・学校、家庭、地域が一体となって連携していくことが今後必要だと思う。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていた」と回答した児童90％以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85％以上	・地域の人・もの・ことに関わる交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年3回以上実施する。 ・キャリアパスポートを計画的に活用する。	B	「先生はあなたのよいところを認めてくれていた」と回答した児童は、93％であった。1年間を通して、地域の人々に関わる体験活動や学年親子活動を全学年3回以上実施することができた。 ・「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に85％の児童が肯定的な回答をしていた。キャリアパスポートを計画的・継続的に活用していくことで、自己の夢や目標の実現に向けて努力する姿勢を継続させていく。	A	・今年度も昨年度に引き続き、商店街への花植えにも来てもらって大変な難しかった。商店街のイベントにも多くの子ども達が来てくれて嬉しく思った。地域と家庭が連携していきながら子ども達を見守り、育てていく環境を整えていければと思う。
	○「ほめるから、はじめる。はじまる」の合言葉を意識した教育活動	○「児童のよいところを見つけ、ほめるような声かけができていますか」について肯定的な回答をした教員を90％以上とする。	・定期的に校内研修会等で、児童への関わりについて教職員間で情報交換をする。 ・「ほめほめカード」の取組において、児童同士だけではなく、先生から児童への言葉かけを全校放送で紹介する。	A	「児童のよいところを見つけ、ほめるような声かけができています」と回答した教職員は98％であった。また、保護者へのお礼もできるようになることを応援している」という質問に対して96％の保護者が肯定的な回答であった。 ・児童同士だけではなく教師からの「ほめほめカード」を紹介することを通して、学校全体に支持的風土の高まりが見られた。	A	・「ほめて のぼす」という考え方は大変大切だと思う。ほめられた児童の子ども達は生き生きとしているものだ。大人でも褒めてもらえると感じる。 ・児童会の「ほめほめカード」の取り組みはとても素晴らしいと思う。お互いのよさを見つけ合うような環境をこれからも整えていってほしい。
	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童80％以上とする。	・体育委員会からの放送や担任からの呼びかけを継続し外遊びを奨励する。 ・体育学習の工夫(カリキュラムの工夫)を行い、体育の授業や体を動かすことが好きな児童を増やす。とともに、健康観察カードによる健康管理に努める。	A	「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童は男子が60％、女子が32％と目標を下回った。 ・「外で遊ぶ日は、外で遊んでいますか」の質問項目について肯定的な回答をしていた児童は、81％であった。外で遊ぶ子ども達が徐々に増えてきて、教師も外で遊ぶというところが見られ、外遊びを推奨することができた。 ・持久走大会、マラソン月間を12月に設け、昼休みの終わりの10分間全校児童でランニングに取り組んだ。練習、大会共に多くの児童が真剣に取り組むことができた。	B	・最近、校区内で子どもをあまり見かけなくなった。仕事場において、子ども達の声もほとんど聞かえることはない。公園にも子どもがいない状況である。少子化の影響もあるかもしれないが寂しく感じている。 ・校外で子ども達が遊べるような場所が少ないように思う。学校で外遊びの楽しさを味わわせてもらえることはこれからの子ども達の運動能力の向上につながると思う。
●健康・体づくり	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」をテーマに学校における食育を推進	○「早寝、早起き、朝ご飯ができていますか」の質問項目について肯定的な回答をした児童を80％以上とする。 ○食事・健康に関する意識調査において、「健康に良い食事をしている」と考える児童90％以上とする。	・早寝、早起き、朝ご飯の取り組みを家庭と連携して行い、望ましい食生活を身に付けさせる。 ・定期的に食生活アンケートを実施する。	B	「早寝、早起き、朝ご飯ができていますか」の質問項目について肯定的な回答をした児童は87％となり、目標を上回った。「健康に良い食事をしている」児童の割合は前年度より下回ったものの、自分自身でできるところから生活習慣改善に努めていることがわかった。 ・1月下旬の給食週間には給食に関する放送や動画の視聴に取り組むことで、給食への理解を促すことができた。	B	・早寝、早起き、朝ご飯ができています児童が87％もいたということは、大変素晴らしいことである。朝、登校時のあいさつ運動をしている時、元気のいい子ども達を見かけると、規則正しい生活ができているか、朝食を食べたか等、不安になることがある。 ・食事のマナーについては、本来は家庭で行うべきことであるが、学校でも指導してもらえれば嬉しいと思います。学校・家庭で連携した指導をお願いします。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日とし、全職員で意識し、声を掛け合う。 ・時間外在校時間の多さが常態化している職員については、管理職が個別に声かけを行う。	A	・時間外在校時間月45時間以内の上限遵守については、87％の職員が遵守できていた。45時間を超える職員については、今後、業務量の過多にならないよう調整していく必要がある。 ・定時退勤日には、意識して早めに退勤できるように、各自が効率的に業務を行っている。	A	・学校の先生たちに気持ちの余裕がないと、子ども達の教育にも影響すると思う。先生方が、ゆとりを持って子ども達と向き合う時間が確保できるようにしてほしい。 ・先生方は、授業だけでなく、様々な業務があり大変だとは思いますが、早く退勤できる日を設定する取り組みは大変有効なのではないかと思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○業務の効率化の推進	○個人ではゴールと優先順位、組織としては行事的・効果的・効率的に活用できるようにする。 ・校務を整理し、諸問題に対してチームとして対応できるようにする。	・校務サーバーを整理し、これまでの文書データを効果的・効率的に活用できるようにする。 ・校務を整理し、諸問題に対してチームとして対応できるようにする。	A	「ゴールと優先順位を意識して業務の効率化を図り、時間外在校等時間の削減に努める」の質問に93％の教職員が肯定的な回答であった。校務サーバー内のデータを効果的・効率的に活用できた。 ・各部会で次年度の行事計画を検討するにあたり、業務の質、得られる教育効果等について協議を行いながら、年間行事計画の作成を行うことができた。	A	・業務の効率化は、先生方の業務改善には欠かせないことである。そういったことを踏まえて、PC等の機器を活用して効率化を図ることができるのは大変よいことだと思う。PCの使用に際して、苦手意識を持っている先生方はないのでしょうか。子ども達だけでなく、先生方も日々学ぶことが多く大変だろうと改めて感じる。
	○共生社会の形成に向けた校内支援体制の充実と環境の整備	○各学期初めに、児童の活動が見える教室環境を整える。 ○アセスメントを行い、必要な支援につなげる。 ○「支援を要する児童に対し、研修会を踏まえ適切な対応を取るよう」に努めている。の質問項目について肯定的な回答をした教員を90％以上とする。	・複数の教員によるアセスメントをもとに保護者と合意形成を図りながら、必要な支援を進めていく。 ・特別支援教育に関する研修会を定期的に行っていく。	A	・多様な児童が落ち着いて学習に取り組めるよう、個に応じた環境整備ができた。児童が安心して活動に取り組めるように、活動の見える化が進んでいる。 ・「支援を要する児童に対し、研修会を踏まえ適切な対応を取るよう」に努めているの質問項目について、肯定的な回答をした教員が100％であり、十分に目標を達成することができた。研修や日頃の情報交換によって、児童に関わる職員全体の特別支援に関する意識が高められた。	A	・多様な児童のために個に応じた環境を整備されていることに感じています。また、先生方も同じような目で子供に向かっておられることに敬意を表します。 ・特別に配慮を要する児童への対応は、難しいと感じる。様々な特性を持った児童に対して、その子に応じた支援をすることは、大切だと思う。ただ、学校だけでは難しい面もあるだろうと思うので医療や外部の専門機関等と連携して対応してほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)					
○幼保小連携	○小中学校9年間の一貫した授業形態による小中連携の推進	○「授業づくり1・2・3」を活用した主体的・対話的な学びを取り入れた授業を実施している」と回答した教員80％を以上とする。	・「中中学校との連携は9年間というスパンを見据えながら計画を立て、内容の充実も図っている。」という質問項目に対して「授業づくり1・2・3」を活用した主体的・対話的な学びを取り入れた授業を公開する。	A	「授業づくり1・2・3」を活用した主体的・対話的な学びを取り入れた授業を実施しているの質問に70％の教員が肯定的な回答であった。成果指標には及ばなかったが、ほとんどの教員が指導員の工夫・改善の意識を持って取り組んでいる。 ・幼保小の連携を深め、低学年の生活上の問題について、就学準備等とも情報共有して早期の対応を考えるために、1月に園を訪問を計画し、新入学児童の園の様子や気になることについて、詳しく聞き取りを行った。	A	・小中学校9年間という義務教育期間でどれだけの学力を身に蓄げることができるかというのは、大人になるために大切なことと感じる。同じ校区内1つの小学校、1つの中学校で人間関係も変わらないからこそ、これらも中学校と連携して、児童生徒への対応を行っているし。
○安全に関する資質・能力の育成	○カリキュラムマネジメントによる防災教育・安全教育の推進	○「自分の住んでいるところや通学路で危険な場所を知っている」と回答した児童を80％以上とする。 ○ハザードマップを知っている児童を80％以上とする。	・中学校と連携し、西唐津中学校校区の自然災害の危険性について学習をする。 ・ハザードマップ等を利用し、校区の危険箇所を調べ、自然災害時の避難の仕方について確認する。	A	「自分の住んでいるところや通学路で危険な場所を知っている」という質問について知っている児童は36％にとどまった。しかし、ハザードマップを知っている児童は76％のほり、自分の住んでいるところや校区内における危険箇所について学びを深めることができた。 ・災害が起こった時の避難場所を知っている児童は76％あり、また、避難の時に必要なものについて知識を深め児童は74％もいた。親子での防災学習を通して、防災の必要性について改めて考えることができた。	A	「西唐津小学校安全マップR06」があることは、大変よいと思った。地域にも広めていく必要があると感じている。災害対応のための安全教育はもちろん大切であるが、交通安全に関する安全教育も大切だと感じている。最近、校区内で車対人の交通事故があった。高齢者同士ではあったものの、子ども達も十分注意しないといけない。学校、家庭、地域を含めた安全教育の必要性を感じている。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	「学力向上に向け全校統一した組織的な取り組みを実施できたことで、学年が変わっても、児童が見通しを持って学習できるような体制を整えることができる。今後は、更にICTを有効的に活用していきながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進め、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に努めていく。 ・全学年において外部人材を活用し、地域に根差した体験的活動を実施することができた。学校目標である「人・もの・こと」に関わりを持ち心豊かに育つ西唐津っ子」の育成につながった。次年度も地域の人的・物的資源を探り、体験的活動を実施することを通して、児童の豊かな心の育成につなげていく。 ・保健体育部を中心に校内持久走大会や防煙教室、薬物乱用防止教室、歯みがき指導等、保健・体育的行事の取組を計画的に実施することができた。今年度は、栄養教諭との「食」に関する学習が実施できなかった。次年度は、計画的に実施できるように努めている。 ・業務改善・教職員の働き方改革については、教職員一人一人の意識改革のもと、組織的に実行することができている。教職員の年齢差が大きく、若手教職員も多いことを踏まえて、今後も更に「チーム西唐津」として、児童の育成のために組織的に対応していく。 ・全学年において、安全に関する資質・能力の育成をめざした防災学習を実施した。身の回りで見起きている様々な災害について、自分事としてとらえ考えを深めることができた。今後も防災意識を高めるような学習を学年に応じて継続していく。		
----------------	--	--	--